

2022年11月13日

イエス様に結ばれて一つ

ローマの信徒への手紙 12：3～8

今日は、子ども祝福式合同礼拝です。大人も子どもも、みんな集まって礼拝をします。子ども祝福式って、何だと思いませんか。ある時、イエス様の所に、沢山の子どもたちが来ていました。その時、イエス様は子どもたちに手を置いて祝福、つまり、いつまで神様が守ってくださいますようにと、お祈りをされたのです。みんなが神様に守られて、大きく大きく成長して欲しいと、イエス様が願ってくださったのです。そして、イエス様がそうされたことを大切にして、高知教会でも毎年「子ども祝福式」を行っています。ここにいる高知教会の大人の人たちも、イエス様と同じように、みんなが神様に守られて、大きく大きく成長して欲しいと、願っているのですね。

さて、今日は、まずみんなに自分の体のことを思い浮かべてみてほしいと思います。私たちの体には、いろいろの部分があります。目、口、耳、足、手などなど。見えるところだけではありません。心臓、肺、胃などもあります。そして、同じ部分の一つもありません。それぞれが全く違う形で、全く違う働きをしています。そのように、一つ一つ違う部分は、バラバラになっているわけではありません。ちゃんと一つの体になっているのです。

もし、それぞれの部分が、自分が何番目に偉いだろうかと、他の部分と比べ始めたら、大変なことになってしまうかもしれません。手が「僕がいるから食べ物を食べられる。だから僕が一番。」と言い始めたら、大変ですね。それぞれが大切な役割をしているのです。

私たちも、いつも自分のことを人と比べてしまいます。時にはあの人と比べて価値が低いなあと辛い気持ちになる時もあります。また、時には、自分の方がすごいのではないかと思って、とても鼻高々になる時もあります。そうして人と比べているうちに、本当の自分が分からなくなってしまいそうです。

神様は「私の目にあなたは値高く、貴く映っています」と言われました。私たちは、神様の目に高価な宝物として、映っています。神様の宝物、それが、神様が受け止めてくださっている本当の私たちです。

パウロさんは、私たち一人一人は全く違っているけれども、神様によって、イエス様に結ばれて、一つとされていますと言いました。イエス様に結ばれているとは、こうして礼拝するため、教会へと招かれていることなのです。そうして、私たちは一つとなっています。

一つとされているのには、神様の大切なお考えがあるからです。教会では、それぞれの人が、神様からいただいたものを用いて、教会のために働いています。体のいろいろな部分が、それぞれに働いているようにです。オルガンを弾いてくれる人もいれば、パソコンで教会の案内文章を作ってくれる人もいます。なかなか礼拝に来ることが出来ない人にお手紙を書いたり、訪ねて行ってくれたりする人もいます。また、礼拝を大切に出来る限り出席する人もいるのです。

先生が前いた教会に、こんな人がいました。教会学校の先生をしている時に病気をなあって、長く病院のベッドの上で毎日を過ごしていました。もう一度教会の礼拝に出席してみたいその人の願いは、結局実現することはありませんでした。けれども、私が訪問した時に、その人は必ず「教会の人と教会学校の子どもたちために祈っています」と言われました。その方の祈りが教会の一人一人を、そして、教会学校の子どもたち一人一人を支えていたのです。そうして、その方は、「祈り」という神様からいただいたものを用いて歩まれたことを思うのです。その人のように、なかなか教会の礼拝に出席できないけれども、みんなのためにいつもお祈りしてくれる人もいるのです。

そうなのです。神様のために役割をしていない人は、一人もいないのです。神様が、一人一人をかけがえのない宝物として生かしてくださっているからです。神様は、私たちを大切な宝物として受け止めてくださり、教会で大切な働きを担っていますと、お伝えくださっているのです。そういう神様の私たちに対するお心を知ったら、自分なんか価値がないかなあと思うことはもう出来ませんし、逆に、人にもっと立派だと言ってもらうために自分を大きく見せる必要もありません。神様が私たちを大切に思ってくださっていることを忘れないで、自分のできることを精一杯していくことが大切だということが分かります。

私たちは、神様の宝物です。そして、神様からたくさんのもので与えられています。人と比べると、ちっともないのではという思いがしますが、実は、それぞれに大切なものをいただいて生きています。神様からいただいたもの大事にして、それを用いて歩いていくことが出来れば、素晴らしいですね。そうして生きることを、神様は、何より喜んでくださるのです。